

がん薬物療法に用いられる「内分泌療法薬」(注射薬)について

内分泌療法薬は、ホルモンの分泌や働きを阻害し、ホルモンを利用して増殖するタイプのがんを攻撃する薬です。乳がんや前立腺がんなどの特定のタイプのがんでのみ使われます。内服や注射で治療します。内分泌療法薬の副作用として、ホットフラッシュ(ほてり)や生殖器での症状、関節や骨・筋肉での症状などが出ることがあります。また、注射部位に疼痛・硬結・腫脹・熱感・掻痒感などがみられることもあります。

LH-RHアゴニスト

リュープロリン(商品名:リュープリン)

- 前立腺癌
- 閉経前乳癌

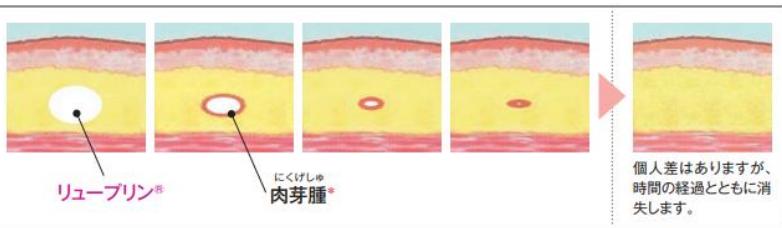
リュープリンSR注射用キット11.25mg

リュープリンPRO注射用キット22.5mg

【投与方法】皮下注射(上腕、腹部、殿部)

リュープリンは1回注射すると、注射部位にとどまり、少しずつ溶け出し効果が続きます。局所に投与された薬は、異物として認識され、その周りに肉芽腫が形成され、注射部位に触れると「かたまり」として感じることがあります。薬は、徐々に分解・吸収されるとともに、ほとんどの場合、肉芽腫も縮小し、やがて消失します。

図1.リュープリン注射後の投与部位の一般的な経時的変化



* 肉芽腫: 体内に入ってきた異物などを取り囲んだ細胞の集団です。

◆ 図1は、武田薬品工業株式会社研究所が実施した動物試験の所見より作成しました。

監修: 山崎直也(国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科 科長)

武田薬品工業 医療関係者向け情報 [Takeda Medical site](https://www.takeda.com/medical-site)

リュープリンSR11.25mg(12週間持続型製剤)の注射を受けられる方へより

これらの注射薬は

注射部位を「揉まない」「かいたり」しない
ベルトなどで注射部位がこすれたり、圧迫されない
部位を選択し、注射部位は毎回変更し、同一部位への
反復投与は行わないこと
ごくまれに、膿瘍・潰瘍化する可能性もあります

注射部位反応とは



アステラス製薬ゴナックスによる治療を受けられる方へより

GnRHアンタゴニスト

デガレリクス酢酸塩(商品名:ゴナックス)

- 前立腺癌

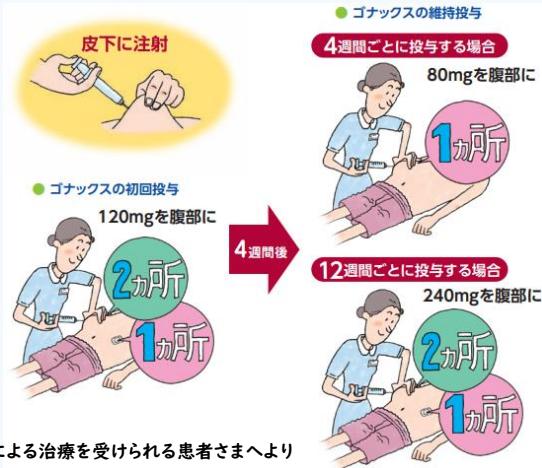
ゴナックス皮下注用80mg

ゴナックス皮下注用120mg

ゴナックス皮下注用240mg

【投与方法】皮下注射(腹部)

ゴナックスは皮下注射後、体液と触れることで、体の中でゲル状の丸い塊を形成します。そこから徐々に薬の成分が放出されることで効果を発揮します。



アステラス製薬 ゴナックスによる治療を受けられる患者さまへより

LH-RHアゴニスト

ゴセレリン酢酸塩(商品名:ゾラデックス)

- 前立腺癌
- 閉経前乳癌

ゾラデックス3.6mgデポ

ゾラデックスLA10.8mgデポ

【投与方法】皮下注射(前腹部) 血管損傷の少ない部位を選択する

ゾラデックスは固形の薬剤で、下腹部の皮下に投与します。投与された薬剤は徐々に溶け出して一定期間作用します。

抗エストロゲン剤

フルベストラント(商品名:フェソロデックス)

- 乳癌

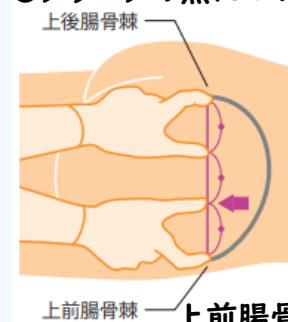
フェソロデックス筋注250mg

【投与方法】筋肉注射(殿部) 左右の殿部に1筒ずつ

フェソロデックスは、効果が長期間続くように設計された徐放性のお薬です。ホルモン受容体陽性の乳がん患者さんのうち、進行または再発した患者さんに対して使われます。治療方法は、閉経後の方と閉経前の方で異なります。

お尻の両側の筋肉内に、1本ずつ(計2本)注射をします。

○クラークの点について



薬剤注入時に筋肉組織の抵抗が強いため21Gの注射針を用いて、1本あたり1~2分かけてゆっくり投与
上前腸骨棘と上後腸骨棘を結ぶ線上の、前側1/3の部位
この部位での注射針の刺入は、皮下組織厚が薄く、中殿筋に薬液を注入できる可能性が高いといわれています。また、血管・神経の損傷を最も回避しやすいことから、第一選択として推奨されています。

皮下注射・筋肉注射は、日頃から行っている看護技術のひとつです。前回の注射部位や患者さんの年齢、既往歴(虫垂切除術やストーマ造設術などの腹部の手術歴)や併用薬(抗血小板薬、血液凝固阻止薬など)の確認を行っていますか? 体型に合わせた投与の工夫、注射針を穿刺する角度など、私たち看護師がリスクを知り、対策することで、安全に注射薬を投与することができます。

担当:がん化学療法看護認定看護師
一林 三保子